

小学校

平成 8 年 度

教育研究員研究報告書

体 育

東京都教育委員会

教育研究員名簿 第 4 1 期

第一分科会 (バスケットボール)

地 区	学 校 名	氏 名
墨 田 区	隅 田 小	野 村 忠 弘
豊 島 区	池袋第五小	○杉 本 昌 彦
北 区	桜 田 小	高 山 直 也
板 橋 区	中 台 小	吉 田 益 巳
足 立 区	北 鹿 浜 小	本 田 幸 彦
足 立 区	舎 人 小	□土 肥 和 久
葛 飾 区	川 端 小	石 川 智
江 戸 川 区	小 岩 小	武 田 千 恵 子
江 戸 川 区	西小松川小	島 野 浩 之

第二分科会 (サッカー)

地 区	学 校 名	氏 名
中 央 区	月 島 第 一 小	田 村 聡 士
江 東 区	砂 町 小	奈 良 美 佐 子
品 川 区	城 南 第 二 小	橋 本 弘 一
目 黒 区	中 目 黒 小	○柏 葉 清 志
大 田 区	東 六 郷 小	服 部 み どり
大 田 区	東 調 布 第 三 小	坂 入 政 嘉
世 田 谷 区	中 町 小	□佐々木 研 一
渋 谷 区	千 駄 谷 小	木 村 憲 昭

第三分科会 (サッカー)

地 区	学 校 名	氏 名
杉 並 区	杉並第二小	○寺 村 尚 彦
練 馬 区	開進第一小	門 野 吉 保
練 馬 区	北 原 小	浅 野 亨
武 蔵 野 市	第 五 小	◎高 城 栄 則
三 鷹 市	第 二 小	□廣 瀬 瑞 光
狛 江 市	狛江第七小	吉 成 嘉 彦
東 久 留 米 市	第 二 小	宮 本 卓 哉
稲 城 市	稲城第四小	寺 崎 俊 司

第四分科会 (バスケットボール)

地 区	学 校 名	氏 名
八 王 子 市	船 田 小	市 川 俊 哉
八 王 子 市	柏 木 小	村 本 治
立 川 市	第 六 小	○仲 光 秀 城
昭 島 市	富 士 見 丘 小	小 暮 とも子
小 平 市	小 平 第 十 三 小	内 木 勉
日 野 市	日 野 第 一 小	□菊 池 修
東 大 和 市	第 六 小	橋 本 勇 一
多 摩 市	多 摩 第 二 小	安 藤 信 也
あ き る 野 市	東 秋 留 小	刀 禰 俊 明
羽 村 市	羽 村 東 小	森 井 英 和

◎総世話人 ○世話人 □副世話人

担当 教育庁体育部体育健康指導課 指導主事 海 東 元 治
 教育庁体育部体育健康指導課 指導主事 菅 原 健 次

目 次

I	研究主題	2
II	研究主題設定の理由	2
III	研究の構想	3
IV	研究の内容	4
1	基礎研究	4
(1)	ボール運動の特性	4
(2)	ボール運動の技能	4
2	調査研究	5
(1)	調査の目的	5
(2)	調査の方針	5
(3)	調査の方法	5
(4)	研究主題と調査項目とのかかわり	5
(5)	調査結果と考察	5
3	研究の視点と実践例	10
(1)	一人一人のよさが生きる学習過程	10
ア	弾力的な学習過程	10
イ	チームの時間の設定	11
ウ	実践例	12
	・第6学年サッカー学習過程例	12
	・第5学年バスケットボール学習過程例	14
	第6学年サッカー本時案例	16
	第5学年バスケットボール本時案例	17
(2)	一人一人のよさが生きるチームづくり	18
	・チーム力を高める道すじ	18
	・一人一人のよさが生きるチームづくりの教師の支援	19
(3)	互いによさを認め合い、よさを生かす評価	20
	・評価計画例	21
	・評価にかかわる学習カード例	22
ア	レーダーチャートの活用	22
イ	チームカードの工夫	23
V	まとめ	24

I 研究主題

自分のよさを生かし，互いに高め合う体育学習
— ボール運動の特性にふれる楽しさを通して —

II 研究主題設定の理由

これからの学校教育には，自ら考え判断し，行動する「主体的に生きていく力の育成」が求められている。この課題を受け体育科においては，生涯体育・スポーツの視点に立ち，児童一人一人が生涯にわたって運動に親しみ，健康で安全な生活を営むことができるような能力や態度の育成に努めているところである。

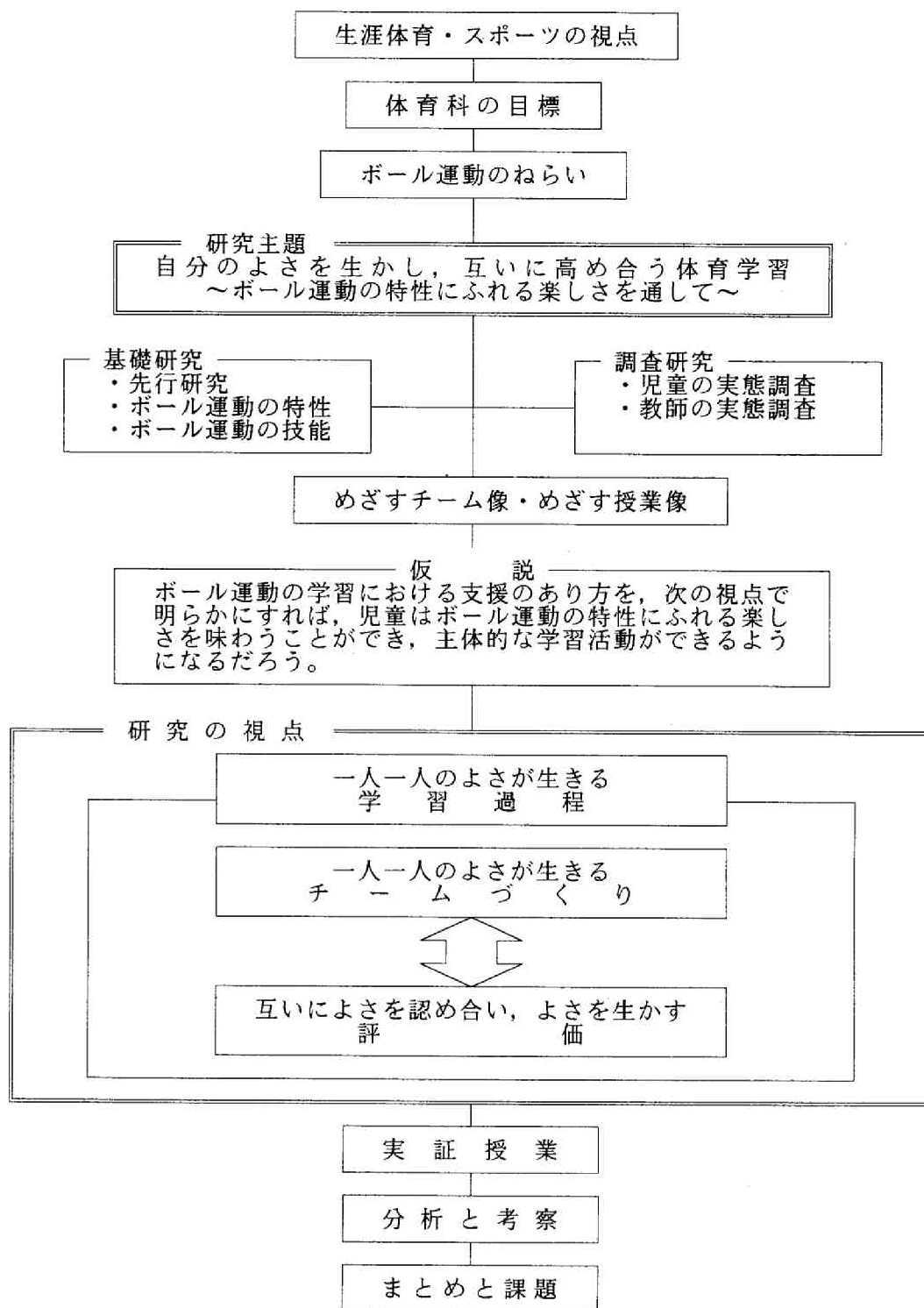
小学校における児童観としては，自分のよさや可能性に気づき，思いや願いの実現をめざし，よりよく生きようとする意欲をもった存在としてとらえていくことが大切である。また，よさとは児童がもっている固有の資質や能力であり，児童が自らのよさを自覚し，豊かに伸ばしていくことが望まれている。

児童は，自分の見方や考え方がまわりから認められていることを自覚したときに，自分のよさを意欲的に発揮しようとする。そのためには，自己評価する力や相互に評価する力を育てていくことが必要である。

興味・関心，意欲，態度，運動の経験や技能などの様々な学習の準備状況に違いのある児童が一緒になって展開される体育学習においては，児童相互のかかわり合いを重視し，「よさ」を認め合い，生かし合うことのできる学習活動の展開が重要であると考え，研究主題を「自分のよさを生かし，互いに高め合う体育学習 — ボール運動の特性にふれる楽しさを通して—」とし，ボール運動領域を通して研究を深めることとした。特に，チームで学習することに着目し，運動の特性にふれる楽しさを味わうことを通して，児童一人一人の「よさ」やチームの「よさ」を生かし，高め合うことのできる授業づくりをめざし，以下の視点で研究を進めてきた。

- 1 一人一人のよさが生きる学習過程
- 2 一人一人のよさが生きるチームづくり
- 3 互いによさを認め合い，よさを生かす評価

Ⅲ 研究の構想



IV 研究の内容

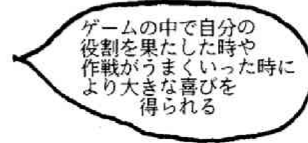
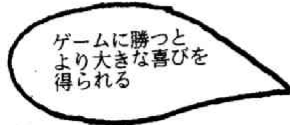
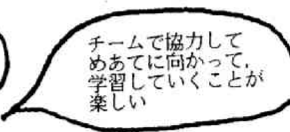
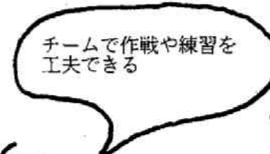
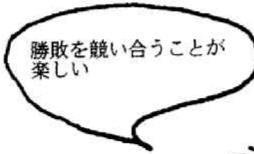
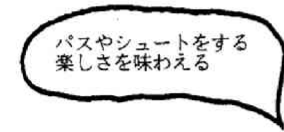
1 基礎研究

(1) ボール運動の特性

① 一般的特性



② 児童から見た特性



(2) ボール運動の技能（身に付けたい技能）

	バスケットボール	サッカー
パス	<ul style="list-style-type: none"> ねらった所にパスをする 止まってボールをとる 動いてボールをとる 	<ul style="list-style-type: none"> ねらった方向にパスをする きたボールを足元に止める 体のいろいろな所でボールを止める
シュート	<ul style="list-style-type: none"> 山なりのシュートをする バックボードを使ってシュートする 	<ul style="list-style-type: none"> 止まっているボールをシュートする 動いているボールをシュートする
ドリブル	<ul style="list-style-type: none"> ドリブルをする 進みたい方向にドリブルをする 	<ul style="list-style-type: none"> ドリブルをする 進みたい方向にドリブルをする
攻守めり方	<ul style="list-style-type: none"> パスをもらえる位置に動く パスやドリブルを使って攻める ピボットを使って相手をかかわす 手を広げて守る 攻守の切り替えを早くする リバウンドボールをとる 	<ul style="list-style-type: none"> パスをもらえる位置に動く パスやドリブルを使って攻める ゴールを背にして守る 攻守の切り替えを早くする
審判	<ul style="list-style-type: none"> ルールを理解し、よく動いて的確に審判をしている 	

2 調査研究

(1) 調査の目的

「ボール運動」領域における児童の意識と教師の意識・指導の実態を探り、研究を進めていく手がかりとする。

(2) 調査の方針

- ・研究主題との関連を考慮し、調査項目を考える。
- ・調査項目を設定した意図を明確にする。
- ・短時間でできる調査内容にし、調査項目の精選を図る。
- ・集計、考察にあたってはボール運動に対する一人一人の思いや願い、5・6年の学年間、あるいは男女間の意識の差について検討していく。

(3) 調査の方法

① 調査期間 平成8年6月12日～19日

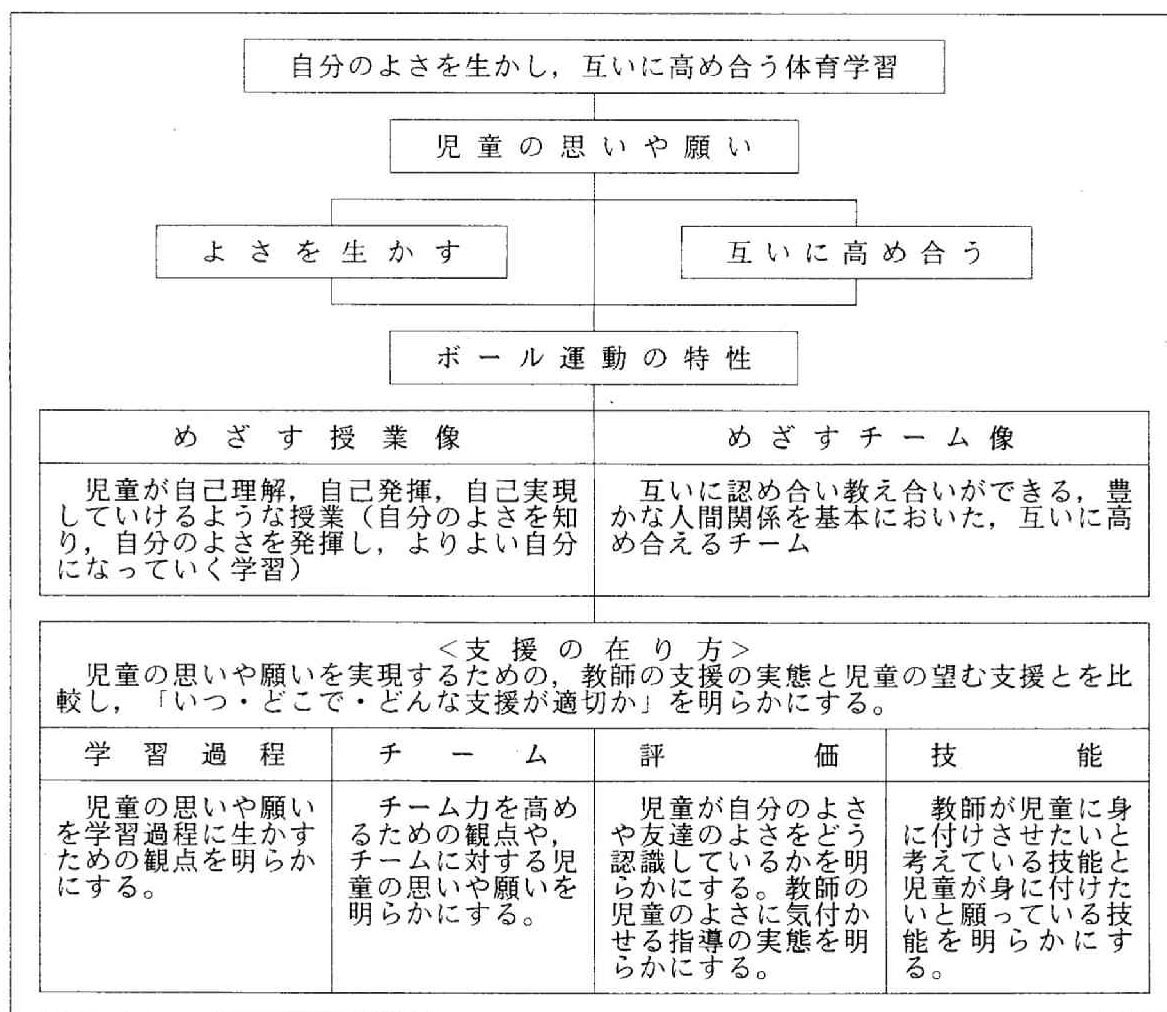
② 調査対象 児童 平成8年度研究員所属校の5・6年生

教師 研究員所属校の教師及び区市の無作為抽出校5・6年担任経験者

<回答数>

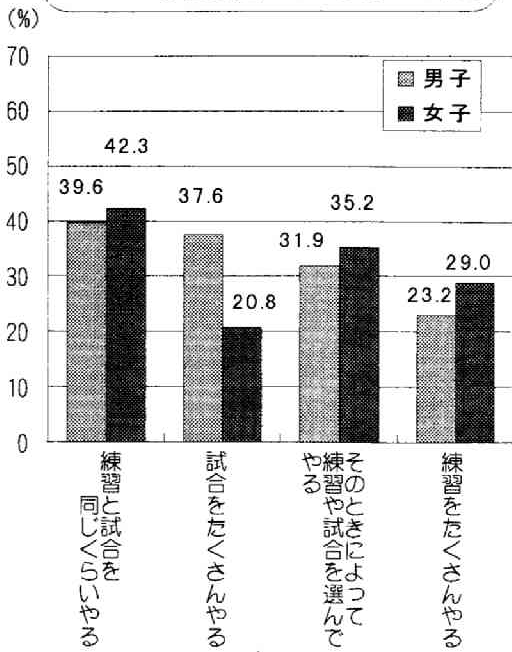
	5年	6年	合計
児童	1,597人	1,554人	3,151人
教師	618人		

(4) 研究主題と調査項目のかかわり



(5) 調査結果と考察

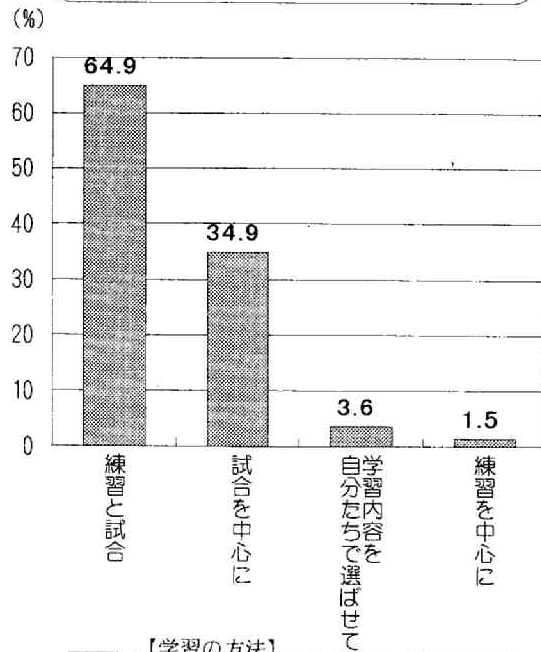
(児) どんなやり方で学習を進めていきたいですか



【学習の方法】

○試合をたくさんやる学習を期待しているという項目は、男女差が顕著である。

(教) ボール運動の学習をどのように進めていますか



【学習の方法】

○練習と試合の両方を取り入れている教師は約6割。
○学習内容を選択させる・練習中心の学習を進めるという教師は1割に満たない。

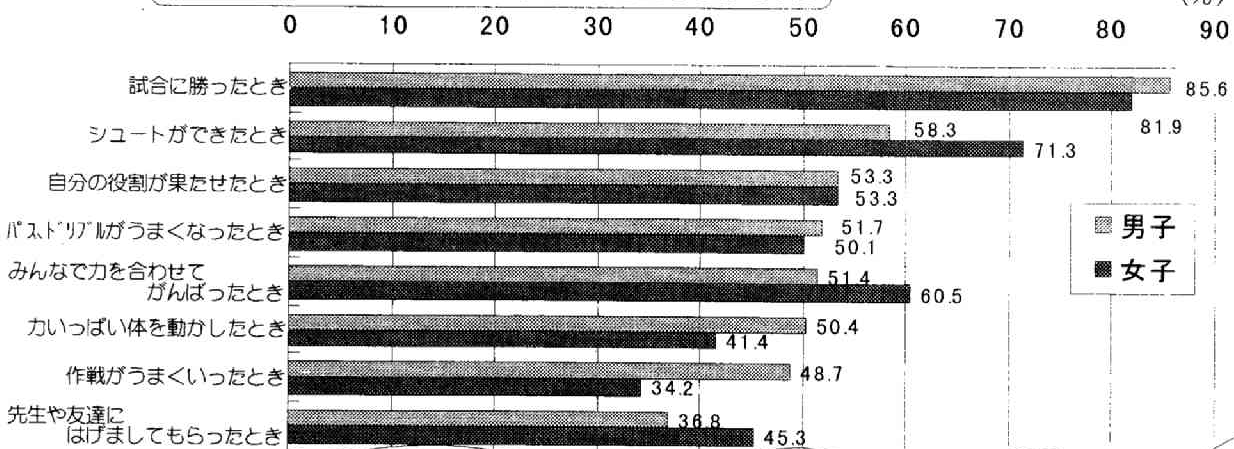
【楽しさやうれしさの経験に関すること】

○試合に勝ったときに楽しさを感じる児童は約8割。
○シュートができたときに楽しさを感じる男子は約6割、女子は7割を越える。
○男女差が顕著なのは、シュート・作戦についての項目。

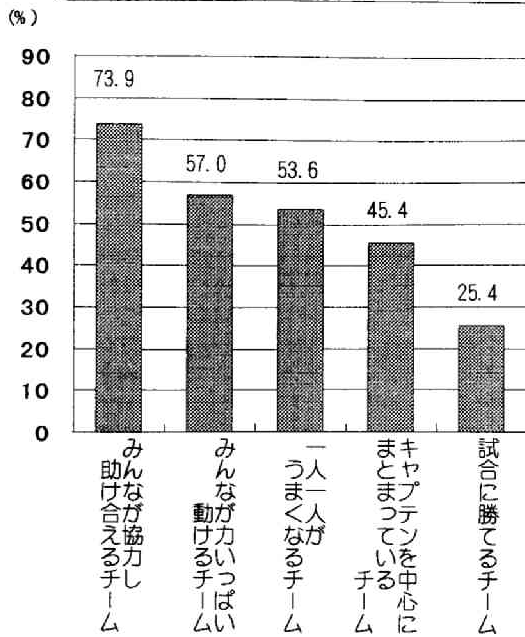
【主に学習過程に関するもの】

○児童の思いや願いを生かし、学習の状況に応じた弾力的な学習過程（個やチームの技能の向上が図れ、ゲームの楽しさを味わうことができるような）を考えていく必要がある。

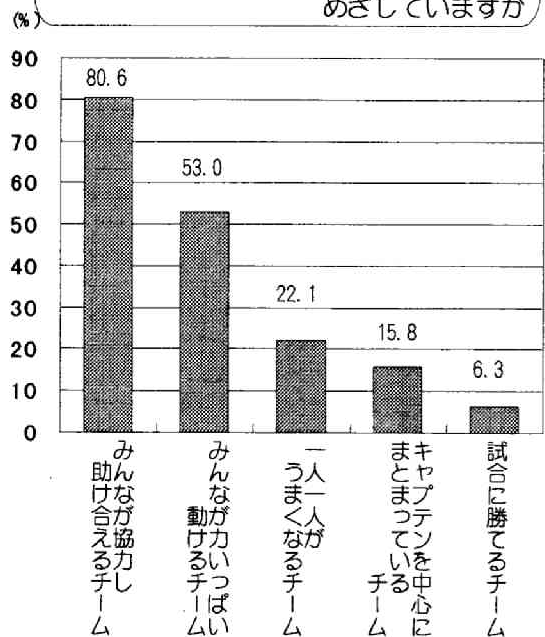
楽しかったり、うれしかったのはどんなときですか



(児) どんなチームにしていきたいですか



(教) どのようなチームづくりをめざしていますか



【願うチーム像】

○協力し助け合えるチームを、7割以上の児童が望んでいる。

【支援を願う場】

○5年生はチーム編成やルール決めるとき。
○6年生になると、練習の場面において支援を必要とする割合が高い。
○審判をしているとき。

【主にチームづくりに関するもの】

○チーム編成の際には、教師が児童の様子を観察し、効果的に助言しながら児童と共に考えていく必要がある。
○チームのよさを認識して、互いに協力し合って学習に取り組めるように支援していく必要がある。
○それぞれのチームの作戦が、チームの実態に応じて立てられているか、練習の方法は適当であるかを判断し、的確に助言していく必要がある。
○一人一人がチームの勝利に貢献し、楽しさを味わえるような支援をしていく必要がある。

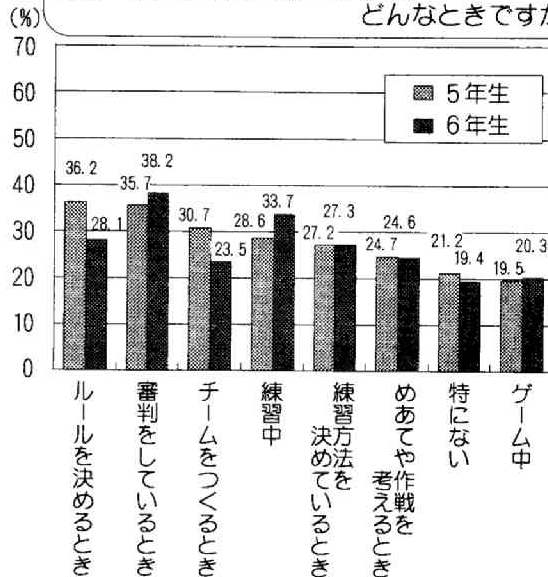
【チームづくりについて】

○協力し助け合えるチームを約8割の教師が作りたいと思っている。

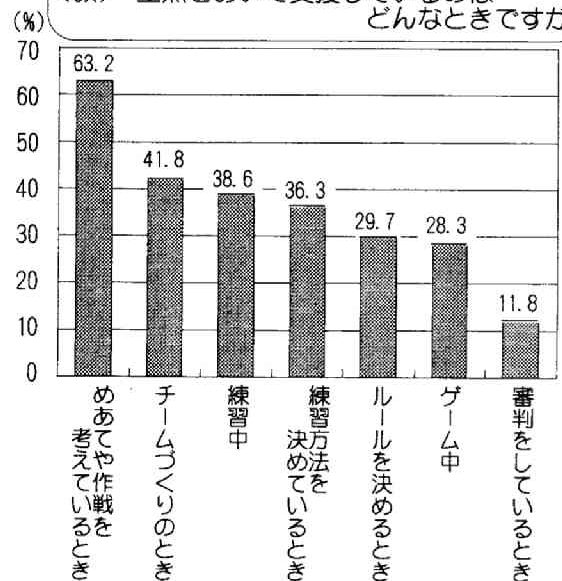
【指導の際に大切にしていること】

○チーム内の教え合いを大切にしている。
○めあてをもたせたり、作戦を話し合わせたりすることを大切にしている。

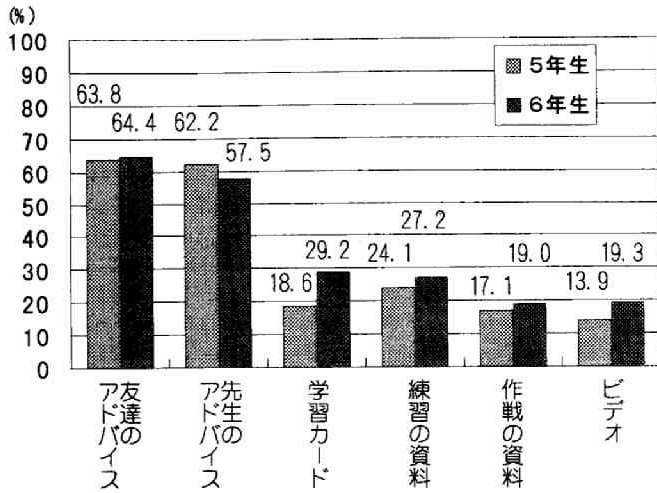
(児) 先生に教えてほしいのはどんなときですか



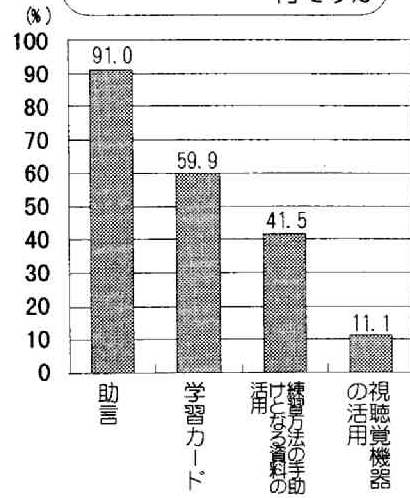
(教) 重点をおいて支援しているのはどんなときですか



(児) 今までの学習で、どんなことが役に立ちましたか



(教) 主な支援の方法は何ですか



【学習で役に立つこと】

- 教師や友達からのアドバイスが役に立ったと感じている児童は約6割に達している。
- 学習カードや資料は、全体からみた割合は低いですが5年生よりも6年生の方が役に立ったと感じている児童が多い。

【具体的な支援の方法】

- 助言を大切にしている教師が9割を越える。
- 学習カードを活用している教師は約6割であるが、資料や視聴覚機器については、半数にも満たない。

【主に評価に関するもの】

- 児童一人一人のよさを生かし、運動の特性に触れた楽しさや喜びの深まりが確かめられる「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」の基本的な3つの観点が明確で、自他のよさに着目できるような評価項目を考え、評価していく必要がある。

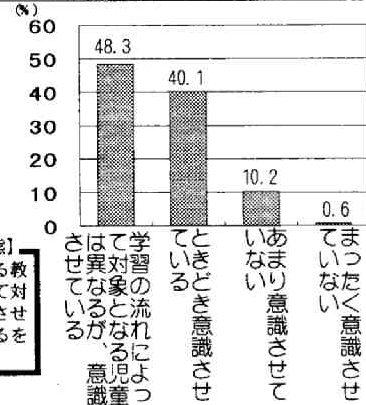
【よさの認識】

- 関心・意欲・態度面に関するよさの認識の割合が他の項目に比べ高い。
- 技能面に関する自分のよさの認識は、男子に比べ女子の割合は低い。
- 全体的に見ると女子に比べ、男子は自分のよさを感じている割合が高い。

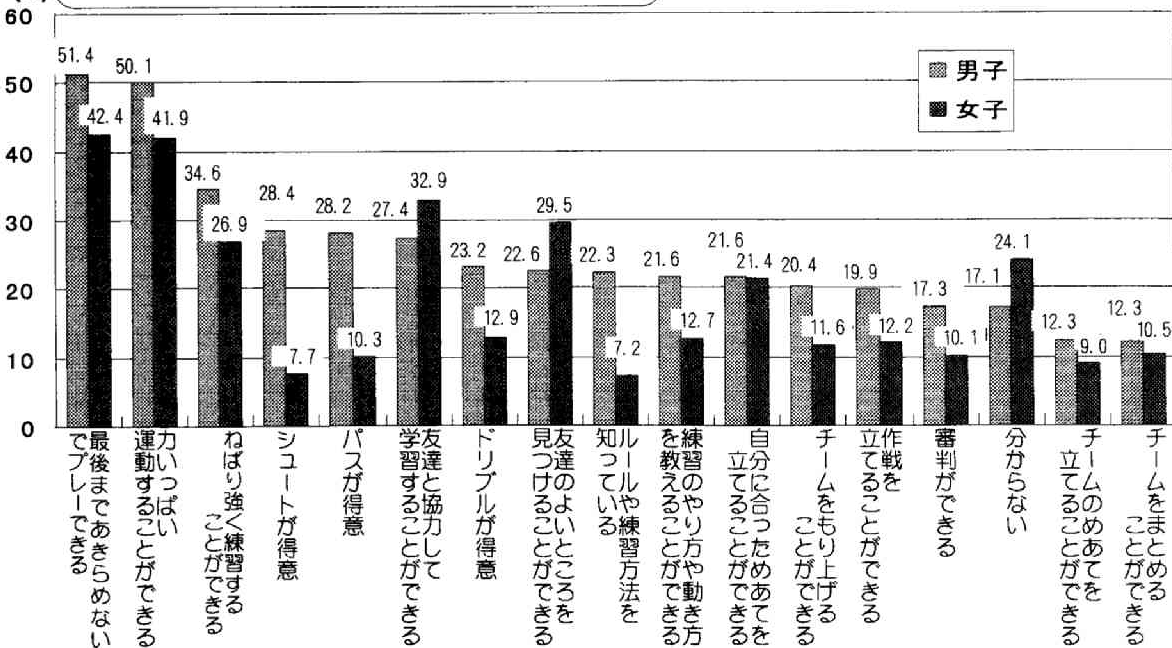
【よさを意識させている教師の実態】

- 一人一人のよさを意識させている教師の割合は、学習の流れによって対象となる児童は異なるが、意識させている・ときどき意識させているを合わせると、8割以上になる。

(教) 児童に自分のよいところを意識させて学習に取り組ませていますか

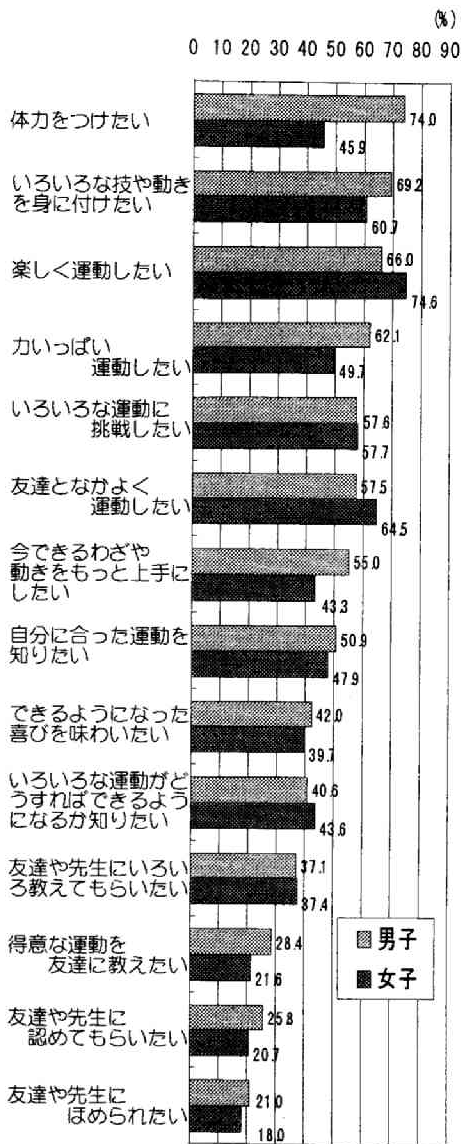


(児) あなたのよいところは、どんなところですか



(児) 体育の学習でこんなことができればいいなと思うことは何ですか

(教) 体育の学習で望んでいることは何ですか

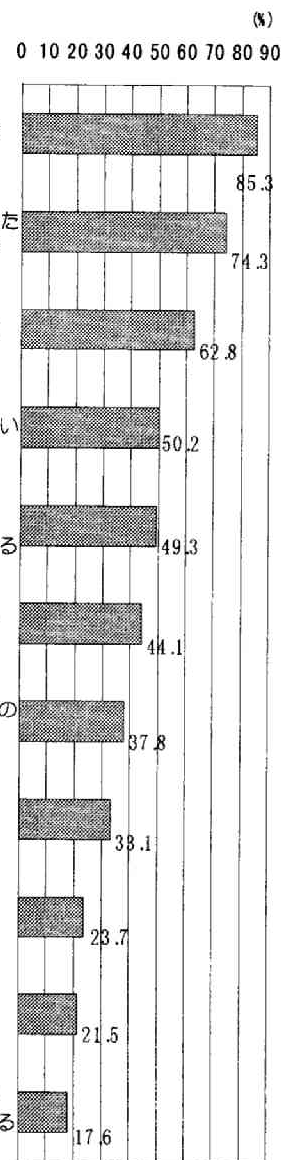


【児童が体育学習に望むこと】

- 楽しく運動したいと望む児童は約7割である。
- 技能を身に付けたいと望む児童は約6割で、女子に比べ男子の割合が高い。
- 体力をつけたいと思っている児童の割合は、女子に比べ男子の方が高い。
- 友達と仲良く運動したいと思う児童は約6割だが男子に比べ女子の割合は高い。
- 他からほめられたり認められたりしたいと望む児童は約2割である。

【体育学習に望むこと】

- 児童の思いや願いを生かした体育学習を展開していくと同時に、それぞれの運動の楽しさ(特性)にふれることのできるような学習を考えていく必要がある。
- 互いに励まし合い教え合えるような「豊かな人間関係」の育成をめざし、一人一人のよさを生かし、互いに高め合える学習を考えていく必要がある。



【教師が体育学習に望むこと】

- 運動の楽しさ体験やできるようになった喜びを味わわせることの割合が約8割であるのに対して、技能の習得や向上に関しては約2割である。
- 友達との認め合いができることを望む教師の割合は6割を越える。

研究の視点

- 学習過程の工夫 (児童の実態に応じた弾力的な学習過程)
- チームづくり (チームや一人一人のよさを生かし互いに高め合えるチーム)
- 評価活動の工夫 (自分や友達、チームのよさを認識できるような評価と関心・意欲・態度、思考・判断、技能の3観点の項目の設定)

3 研究の視点

(1) 一人一人のよさが生きる学習過程

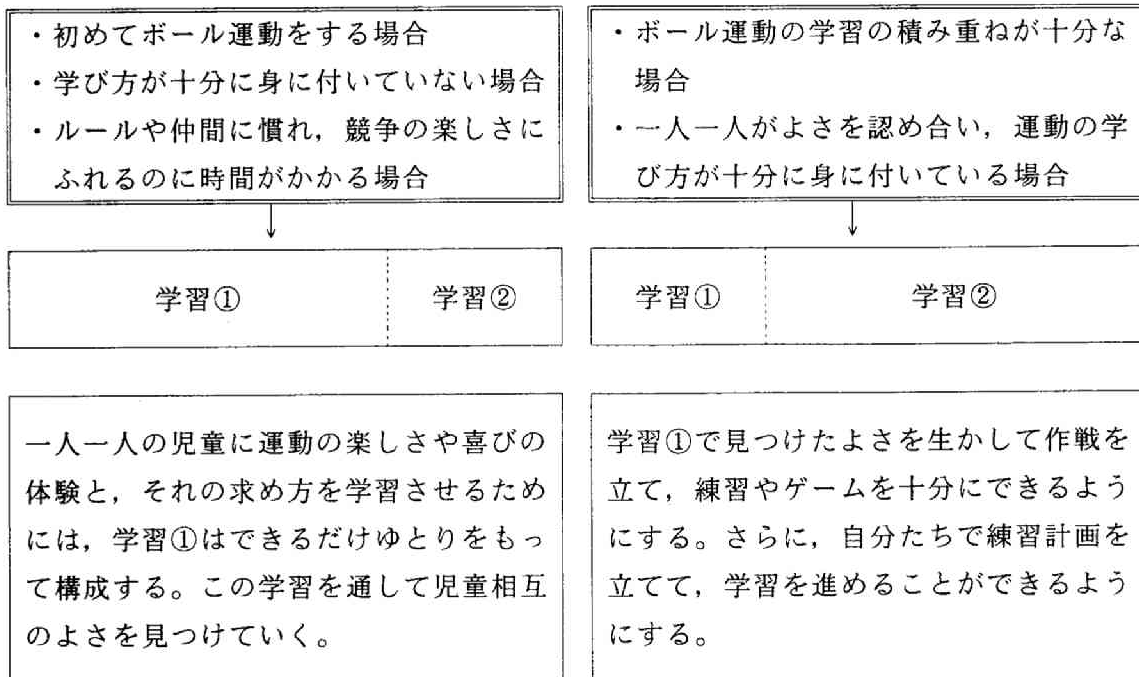
ボール運動は、興味・関心や学び方、技能などの異なる児童が、互いに協力し合い、一人一人やチームの思いや願いを実現させながら競争の特性にふれる活動を特徴としている。学習を進める上で、すべての児童が競争の楽しさにふれるには、十分時間をかける必要がある。したがって、単元のはじめに、やさしいルールで十分な時間をかけて学習することを通して、学習の仕方を身に付けることが大切である。そこで、学習の仕方やチームに慣れ、競争の楽しさにふれる段階（学習①）を設定する。さらに、学習①における経験を土台にして、作戦や練習を工夫し、互いに高め合い、楽しさを深める段階（学習②）を設定するステージ型とした。

また、自分や友達のよさに気づき、そのよさをチームの中で生かし高め合うという研究主題に迫るために、学習①を「よさを見つける段階」、学習②を「よさを生かす段階」とした。

学 習 ①	学 習 ②
よさを見つける段階	よさを生かし、高める段階
今もっている力でゲームを楽しむ中で、自分や友達・チームのよさに気づき、互いに認め合う。	チームや一人一人のよさを生かし、作戦を立てたり、練習を工夫したりして互いのよさを高め合う。

ア 弾力的な学習過程

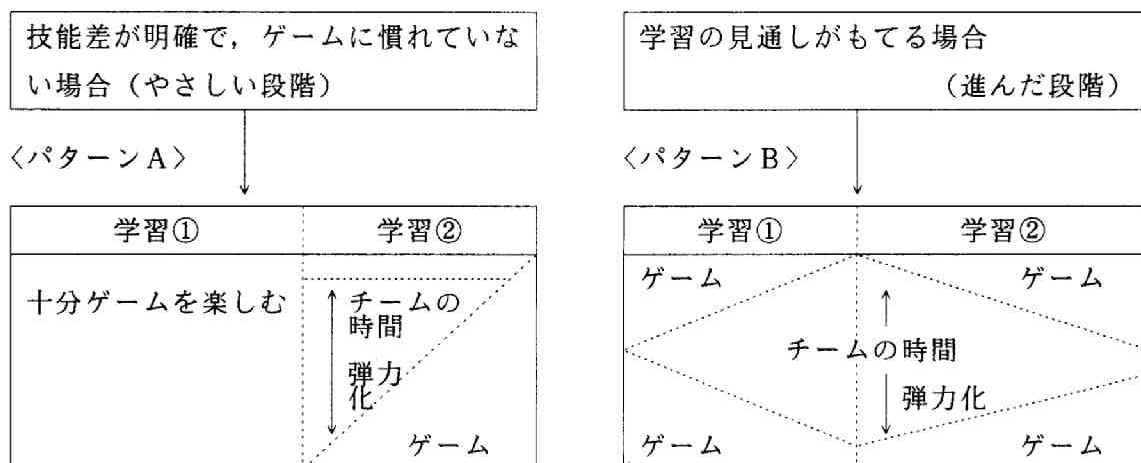
学習の仕方や技能の習熟度などの学習の準備状況に応じた学習過程とした。また、学習の実態や児童の変容に応じて、各段階の時数を弾力的に変更できるようにした。



イ チームの時間の設定

児童一人一人が主体的に学習に取り組み、意欲をもって活動するためには、学習の中に児童自らが意志決定したり、学習方法を選択したりする場を設定することが大切である。このことは、児童の思いや願いを生かすことであり、運動の楽しさや喜びもさらに高まるのである。

そこで、学習の進め方について話し合いをしたり、作戦を試したり、練習をしたりするなど、自分たちで学習の進め方を自由に計画することができる『チームの時間』を設けた。



「学習①では、十分ゲームを楽しみ、学習②にチームの時間を設定」

「チームの時間を自由に選択し、チーム独自の計画で」

学習①では、十分ゲームを楽しむ中で、学習の仕方を身に付ける。

学習②でチームの時間を設定する。チームごとに学習内容を選び、それぞれのチームで学習計画を立てて、互いによさを高め合う。1単位時間の枠で取ったり、児童の実態に合わせて、学習②の途中に取ったりすることも考えられる。

※チームの時間を点線で示してあるのは、児童の状況に応じて、その時間を弾力的に取り扱うことを意図しているからである。

学習①では、ゲームやチームの時間を通して個人やチームのよさを見つけたり、認め合ったりする機会を増やす。

学習②では、よさを生かし、相手に応じた作戦を考え練習する。

さらに、児童の実態に応じて、チームの時間とゲームの取り方を自分たちで考えていく。特に、学習②では、1単位時間の流れなどを対戦チームやコートごとに計画を立てることもできる。

* 第5年では、バスケットボールを11時間、サッカーを10時間扱い、第6学年では、バスケットボールを10時間、サッカーを11時間扱いとした。

ウ 実践例〔第6学年 サッカーの学習過程例〕（パターンA）

学習②にチームの時間を1単位時間の枠で設定した例

回	学習①〈オリエンテーション〉	3 ～
学 習 活 動	<p>○学習のねらいや道すじを知る。 ○チーム編成をする。 ○役割分担や学習資料の活用の仕方を知る。 ○ルールやマナーについて話し合っ て決める。 ○1時間の学習の進め方を知る。 ○次時の確認をする。 ・対戦相手</p> <p>○試しのゲームをして、自分やチームの力をつかむ。 ○自分やチームの願いを明らかにする。 ○次時の確認をする。 ・対戦相手 ・役割分担</p> <p>※ここでは、オリエンテーションを2単位時間設定した。</p>	<p>〔リーグ戦〕</p> <p>○ゲームの進め方を確かめる。 ・めあて ・ルール ・コート ・マナー ・対戦相手</p> <p>○ゲームや練習をする。 〈学習の進め方〉 〈コートの工夫〉 （横グリッド） （縦グリッド） （トライアングルコート）</p> <p>広がって動くことができ、パスを中心としたゲームになりやすい。</p> <p>自分のポジションや素早い攻守の切り替えの動きを理解しやすい。</p> <p>シュートチャンスが多い。</p> <p>・今いるこのメンバーでどのようなゲームができるか、作戦を考える。 ・チームのよさに合った練習をする。（チームの攻撃パターン）</p> <p>○学習のまとめをする。 ・めあて ・ルール ・コート ・マナー など</p>

〈『チームの時間の設定』の仕方〉

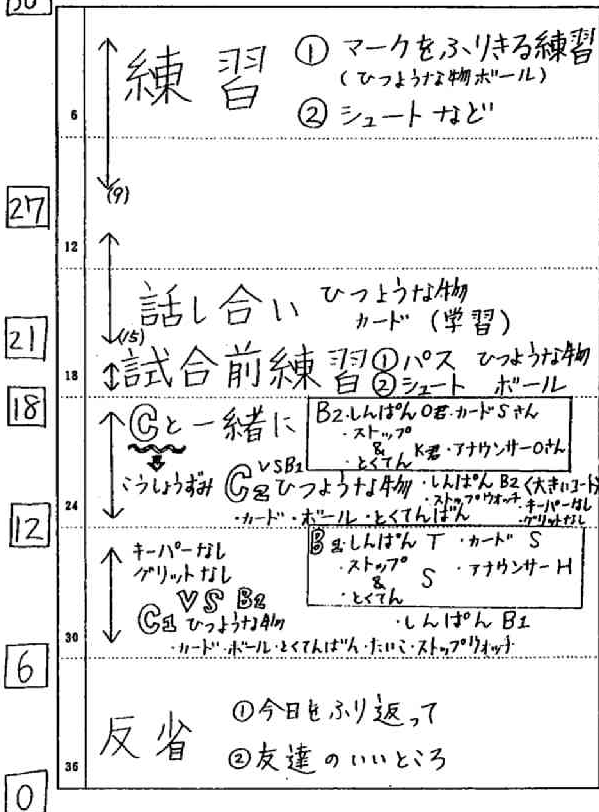
サッカーの学習に対する関心・意欲や、技能面での差が大きい場合、リーグ戦や対抗戦の合間に行うような短時間のチーム練習では、十分な技能の伸びや教え合いは期待できず、児童の思いや願いを生かしきれない。そこで、1単位時間を『チームの時間』としてとることで、児童が練習方法や時間配分などの学習内容を主体的に決めるようにし、ゆとりをもって学習を進めることができるようにした。また、単元全体の中で、ある程度チームのまとまりができ、互いのよさを認め合うようになる学習②の初めに設定することが適切である。

〈『チームの時間』の計画づくりに対する支援〉

- 1 オリエンテーションで、『チームの時間』についての見通しをもつ。
- 2 よさを意識しながらチームの作戦を考え、さらにそのための練習方法を考える。
- 3 チームの時間の内容をメンバーで話し合い、簡単な計画を立てる。
- 4 キャプテン会議を行い、コートや時間の使い方。
- 5 必要に応じてチームの計画を見直す。
- 6 練習試合の相手を想定した練習方法を考える。

学習② 〈チームの時間〉	～ 11
<p>○チームのよさを生かすために、チームで学習内容を選択し、計画を立てる。 ・練習内容 ・時間配分 ・ルールや場 ・練習試合の方法 ・役割分担 ・めあて</p> <p>○チームで練習やゲームをする。 ・練習（個人、チーム） ・練習試合 ・ミニゲーム ・作戦タイム ・ポジションに合わせた練習</p> <p>○学習のまとめをする。 チームの時間計画書</p> <p>※この例では、チームの時間を2単位時間設定した。</p>	<p>〔対抗戦〕 トーナメント戦</p> <p>○ゲームの進め方を確かめる。 ・対戦相手（ルール、コート） ・役割分担 ・めあて</p> <p>○ゲームや練習をする。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD A[話し合い・練習] --> B[ゲーム] C[ゲーム] --> D[話し合い・練習] E[話し合い] --> F[ゲーム] G[ゲーム] </pre> </div> <p>○学習のまとめをする。 ・めあて ・ルール ・コート ・マナー など</p>

36 『チームの時間』の計画書 〈B チーム〉



〈『チームの時間』に対する児童の感想〉

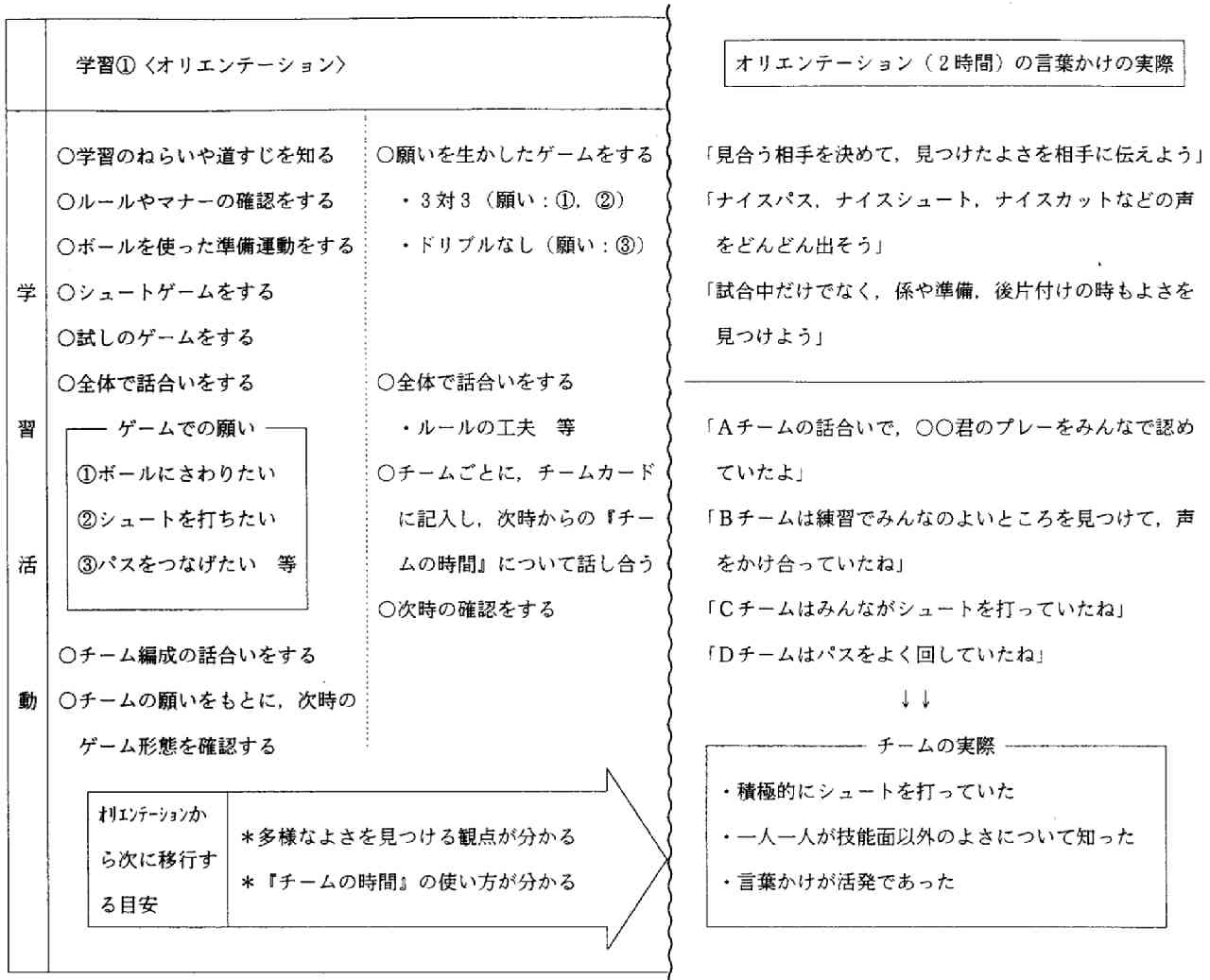
- 「作戦をくわしく考えられた。」
- 「練習をたくさんできた。」
- 「パスの仕方やもらい方が少しうまくなった。」
- 「自分や友達にあったポジションが分かった。」

〈成果〉

- ・1時間目は子供たちは計画した内容に追われていたが、2時間目はスムーズに練習できた。
- ・チームの作戦について振り返り、修正することができた。
- ・1時間目よりは、さらに作戦を意識した活動になってきた。
- ・計画書で教師が支援の見通しをもつことができた。

〔第5学年 バスケットボール学習過程例〕（パターンB）

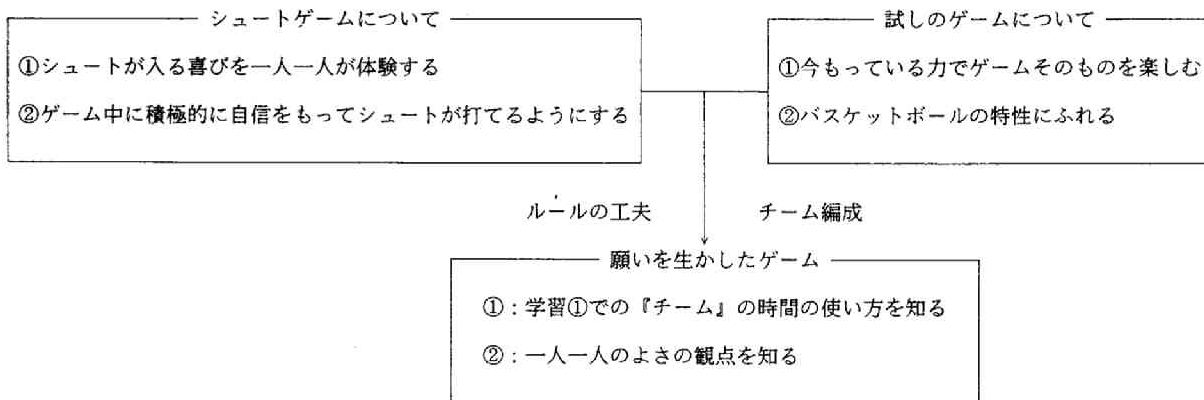
学習①から『チームの時間』を設定した例

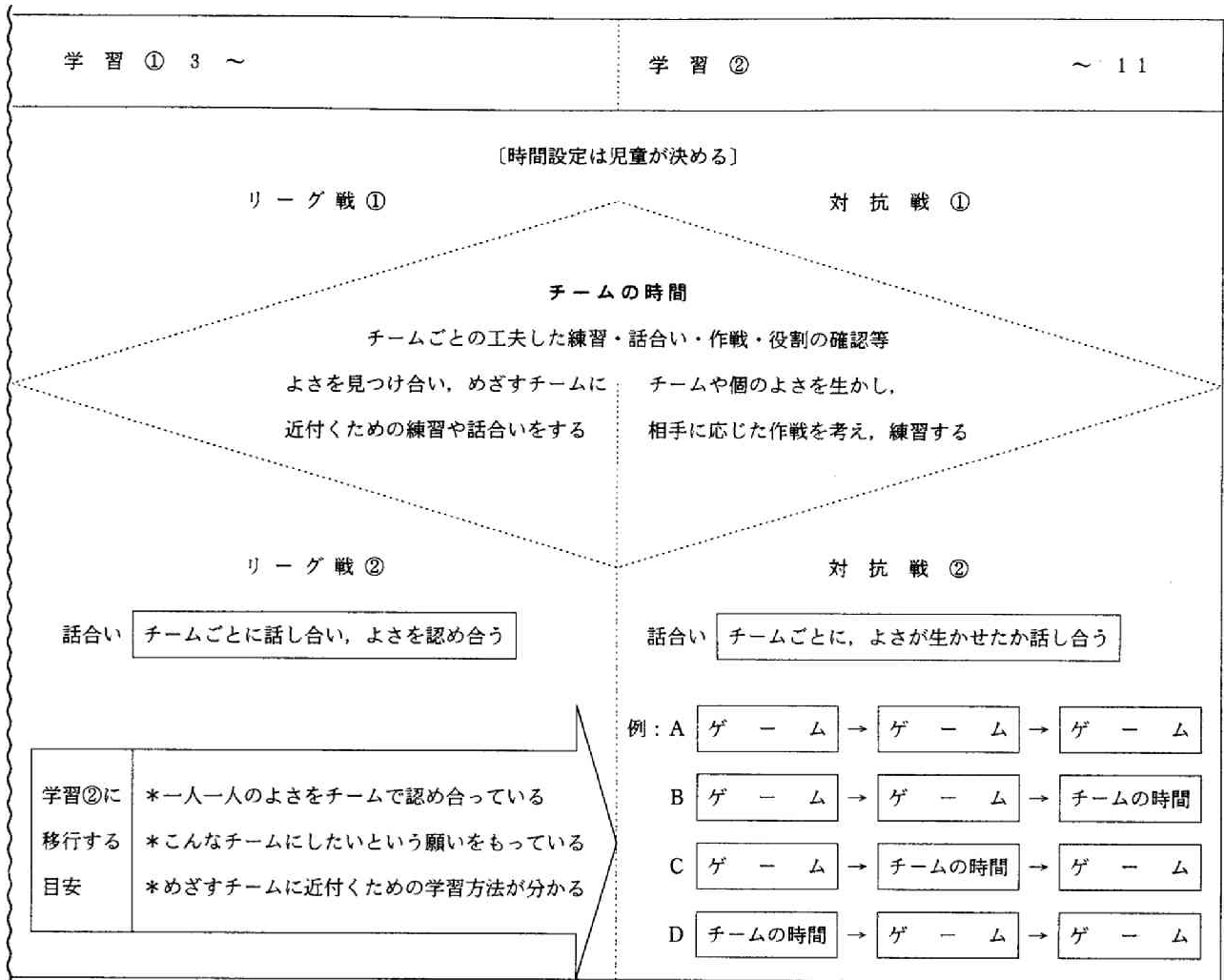


☆オリエンテーションを2時間とることについて

初めてバスケットボールを経験する5年生が、よさについての認識を深め、学習を主体的に進められるように、オリエンテーションの内容を次のように考え、2時間設定した。

- ・学習の進め方を知る
- ・ボールに慣れる
- ・一人一人に多様なよさがあることを知る
- ・願いを生かすために『チームの時間』があることを知る
- ・シュート、パス、ドリブル等の技能について知る。





学習①の言葉かけの実際

「チームのよかったところは何だろう」
 「チームのみんなが活躍できるには、どうすればいいかな」
 「パスがつかないときは、ドリブルなしでゲームや練習をしてみよう」
 「3対3のゲームや練習は、ボールを持つ機会が増えるよ」
 「一人一人のよさをゲームに生かされると、もっと強くなるよ」

↓↓

—— チームの実際 ——

- ・友達へのアドバイスが具体的にってきた
- ・一人一人のよさをゲームに生かすために、『チームの時間』の使い方を教師の支援や学習資料を参考に考えるようになってきた

学習②の言葉かけの実際

「ボールを持っていないときの動きにも注目してみよう」
 「今日の相手の中で、マークする人は誰かな」
 「相手の〇〇君はパスカットがうまいから、それを避けてサイドから攻めてみよう」
 「今日の作戦で自分のよさが生きるように、ゲームを思い描いて自分のめあてを決めよう」

↓↓

—— チームの実際 ——

- ・作戦にそった練習ができるようになってきた
- ・ゲームでの一人一人の役割が明確になってきた
- ・攻守の切り替えが早くなってきた

[第6学年 サッカー本時案例] パターンA (11時間扱いの6時間目)

(1) 展開

分	学習内容・活動	支 援	
4	1. 学習の進め方の確認	○服装などの確認をする。	
	2. 準備運動	○対抗戦に向け、『チームの時間』を有効に使うことを確認する。	
	3. チームの時間	○主に脚のストレッチをする。跳躍等を行い、身体的準備を整える。	
A チームの例			
分	学習活動	支 援	児童の活動
6	練習 (9分) ・練習方法確認 ・パス～シュート練習 キャプテンが、ボールの蹴り方をアドバイスした話し合い (3分) ・作戦や動き方の確認	○練習方法を理解しているか確かめる。 ○個別にボールの蹴り方・止め方を助言する。 「一回止めてからでいいからね。」	→自分たちが立てた計画を思い出すことができた。 →自分の失敗を気にしていたが、承認され安心すると同時に、ボールを止めてから蹴ることを心がけるようになった。
12	練習 (6分) ・作戦に合わせたパス～シュート	○作戦を認め、落ち着いて試合に臨むよう励ます。	→キャプテンがメンバーに声をかけた。 「落ち着いていこうぜ。」
18	練習試合 (5分) (A2対D2) ・審判 ・アナウンス ・時間、得点 ・カード記入	○個別にディフェンスの仕方について助言する。	→ボールをキープして味方にパスする姿が見られるようになった。
24	練習試合 (5分) (A1対D1) ・審判 ・アナウンス ・時間、得点 ・カード記入	○よい動きを賞賛し合うよう助言する。	→シュートを決めたメンバーに、キャプテンが声をかけた。 「ナイスシュート」
30	話し合い (6分) ・作戦について ・チームや一人一人のよさについて	○『チームの時間』が有効であったか確認する。	→メンバー全員で確認し合った。 「練習の時間にキャプテンがボールの蹴り方を教えてくれた。」
36	4. 整理運動	○よく使った筋肉をほぐすように助言する。	
45	5. 学習のまとめ ・『チームの時間』を振り返る。 ・よさについて ・次時について	○急激に筋肉を冷やさないよう配慮しながら、整理運動を行う。 ○『チームの時間』がチームにとって有効であったかどうか、よさを生かすことができたかどうか考えるように助言する。 ○次時の学習活動を確認する。	

(2) 本時の考察 (『チームの時間』を1時間終えて)

- 1時間の学習計画を主体的に考え、計画表に表したことで、見通しをもって学習することができ、練習の時間を大切にしようとする様子が見られた。
- 自分たちで学習内容を進めていくことで、学習①では見られなかった言葉かけや教え合いが見られ、チーム力が高まった。
- サッカーに対する関心・意欲が高まり、個やチームに応じた練習をすることができた。
- 練習や話し合いの時間を十分にとることにより、教師の支援がさらに具体的になり、一人一人やチームに有効にはたらいいた。

〔第5学年 バasketボール本時案例〕パターンB（11時間扱いの4時間目）

(1) 展開

分	学習内容・活動	支援（◆印）と児童の活動（・印）
7	<p>1. チームごとに集合整列し学習内容を知る。 ○対戦相手と役割、チームのめあてを確認する。 ○準備運動をする。 ・ストレッチ ・ボールを使ってシュートゲーム</p> <p>2. ゲーム①を行う。 ○ゲームをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1コート Bチーム 対 Cチーム 審判：Dチーム 2コート Eチーム 対 Fチーム 審判：Aチーム</p> </div> <p>○審判チームは気付いたよさを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【チームの時間】</p> </div>	<p>□赤色チームの活動 シュートゲーム ◆「リバウンドをとろう!」「ナイスシュートの声は?」 ・赤1 「1本!」～「4本!」「ナイスシュート!」 ・赤1～5「周りを囲んでやろう。」 ・赤1 「そうそう。」</p> <p>□黄色チーム ゲームの様子 ・黄1 「マークしろ。マークだ!」 「ドンマイ!」「パスしろ!」 ・黄6 シュートが決まる。 ◆「黄1は声がよく出てるね。声や合図を出して、パスをつなごう。」</p> <p>□黄色チームの活動 3対3の練習～話合い ◆「シュートのときボードのどこをねらえばいいかな?」 「空いているところに動いて、パスをもらおう。」 (練習終了後の話合いで) ・黄6 「みんな固まっているんだよな。」 ・黄2 「固まっている人や、空いている人がいたら、見た人が声をかけようよ。」 ・黄1・5「うん。」</p>
37	<p>3. チームごとに工夫したゲーム、練習、話合いを行う。</p> <p>4. ゲーム②を行う。 ○ゲームをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1コート Bチーム 対 Dチーム 審判：Cチーム 2コート Eチーム 対 Aチーム 審判：Fチーム</p> </div> <p>○審判チームは気付いたよさを伝える。 ○チームごとに整理運動をする。</p> <p>5. チームで話合いを行う。 ○今日の学習を振り返り、個やチームのよさについてカードに記入し、発表する。 ○個人の学習カードの記入をする。</p> <p>6. 集合し、本時のまとめをする。 ○個人やチームのよさについて発表する。 ○次時の予告をする。</p>	<p>□青色チームの活動 ゲームの様子 ・青4 「サイド、サイド! (を使え)」 ・青3 「(青5に) 走れ!」パスを出す。 ・青5 シュート決まる。 ・青3 「ナイスシュート!」 ・青6 相手によくついてディフェンスをしている。 ◆「ナイスディフェンス! 手を広げて!」 ・青2 「パスカット!」「シュートを入れさせるな!」</p> <p>□チームカードより ・友達が「ドンマイ、固まるな」と声をかけてくれた。 ・他の人がリバウンドをとってくれた。 ・作戦をみんな守っていた。 ・W君はシュートやパスが前より数段うまくなった。 ・たくさんパスが回った。</p>

(2) 本時の考察

- 『チームの時間』では、児童が練習や話合いなどの時間を工夫しながら使うことができるようになってきた。練習では、アドバイスをしたり認め合ったりするような姿が多く見られた。話合いでは、見合ったことを生かし、次のめあてを考えていた。
- ゲーム中には、『チームの時間』の話合いを生かした言葉かけが活発に行われていた。
- 毎時間、見つけたよさを短冊に書き、チームカードにはっていくことで、よさの高まりが視覚的にとらえられ、チーム力の高まりが実感できた。
- 児童は、友達と認め合いながら学習することで自分に自信をもち、よさを発揮できるようになってきた。教師が認め合っているチームを賞賛することで、友達同士のかかわりが深まり、よさをたくさん見つけ合えるようになった。

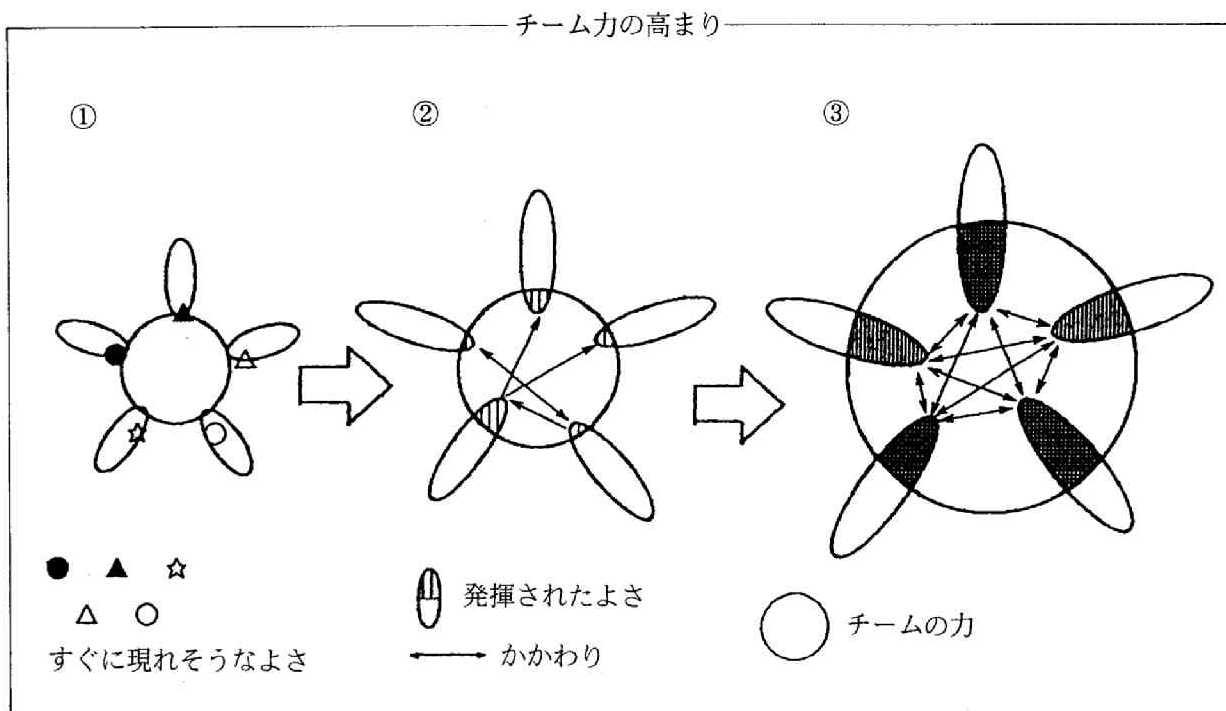
(2) 一人一人のよさが生きるチームづくり

ボール運動では、一人一人の高まりがチームの高まりにつながり、チームの高まりが個の高まりにつながる。チームの高まった状態を以下のようにとらえた。

- 友達に激励や賞賛の声をかけ、全力で練習やゲームをしている。
- チームのよさを生かした作戦を立てて、それに応じたゲームや練習をしている。
- 作戦にそって、シュートに結び付くパスやドリブルをしたり、攻守の切り替えを素早くしている。

〈チーム力を高める道すじ〉

チーム力の高まりを以下の図のように考えた。



上図①は、チームを編成したときの状態である。チームのメンバーは、それぞれによさを発揮するが、それが自分のよさであることを明確には理解していない。

この状態から、ゲームや『チームの時間』を通して、互いのよさを見つけ、認め合うことで自分のよさに気付いていく。自分のよさを自覚することにより、自信をもってプレーできるようになる。この過程で、チームの一員としての存在感が生まれ、さらに、チームとしてのよさに気付くようになる。これが、上図②の状態である。

一人一人がチームとしてのよさを発揮したり、個々のよさを生かした作戦を立ててゲームをすることで、個々のよさがチームのよさになっていく。また、児童相互の教え合いや児童が自信をもってプレーする中で、新たなよさに気付いていく。このことにより、上図③のように、チームのよさが広がり、さらにチーム力が高まっていく。

教師は、一人一人のよさを見取っていくとともに、児童相互のかかわり（認め合い・教え合いなど）を深める支援をしていくことが大切である。

「一人一人のよさが生きるチームづくり」に関する教師の支援

学習①「よさを見つける」段階	学習②「よさを生かし、高め合う」段階
<p>【自分や友達よさを見つけ、認め合うチーム】</p> <p>◆言葉かけ 《チーム編成》 ・意欲がもてるようなチーム編成をする。 ☆ミニゲーム・試しのゲーム 「自分の得意な事は何か」 「バスケットボール(サッカー)でどんな事をしたのかな」 ☆キャプテン(編成委員)の選出 「チームの編成を任せられる人、チームをまとめられる人を選ぼう」 ☆チーム編成 「どのチームにも勝つチャンスがあるように、チーム分けをしよう」</p> <p>◆言葉かけ 《話し合い》 ・毎時間、互いのよさを出し合えるようにする。 「友達ががんばったことをたくさん教えてあげよう」 「自分ががんばったことをカードに書いておこう」 「前の時間より、よくなった所は何か」 《役割(係)分担》 ・役割(係)を自覚して活動し、よさを多面的にとらえられるようにする。 「分担された仕事をしっかりやろう」 「準備や片付け、係のよさも見つけていこう」 《マナーの理解》 ・審判や勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。 「失敗しても『ドンマイ』と声をかけてあげよう」 「審判の判定には、従おう」 《ゲーム》 ・互いのよさをゲームの中で見つけられるようにする。 「いいプレーを見つけて、どんどん声をかけよう」 「チームの友達がやる気を出せるように、応援したり励ましたりしよう」 〔学習①から「チームの時間」を設定する場合〕 《チームの時間》 ・よさを多面的にとらえ、自分や友達よさを見つけられるようにする。 ☆作戦・練習 「友達のよさを見つけ、たくさん教えてあげよう」 「うまくできたことを、友達にどんどん教えてあげよう」 「チームの願いを実現していくためには、どんなことをしていったらいいかな」 「チームのよさを見つけ、それをもとに作戦を立ててみよう」 ☆話し合い 「チームの願いをもとに、チームの時間の内容を考えよう」 「自分たちに合ったチームのめあてや内容を考えよう」</p> <p>《技能の高まり》 ・ボール慣れやゲームを通して、個人の技能を中心に高めていけるようにする。 「いろいろなパスの仕方を試してみよう」 「自信をもって審判をしよう」 「山なりのシュートを打ってみよう」(バスケットボール) 「足の裏でボールを止めるといいよ」(サッカー) 〔学習①から「チームの時間」を設定する場合〕 ・チームの時間やゲームを通して、技能を高めていけるようにする。 「ドリブルやパスを使ってボールを運んでみよう」 「パスをもらえる位置に動こう」 「コートを広く使って攻めよう」</p> <p>◆学習資料 「よさカード」「個人カード」など 〔学習①から「チームの時間」を設定する場合〕 「チームカード」「チームの時間計画書」「作成・練習カード」など</p>	<p>【互いのよさを生かし、高め合うチーム】</p> <p>◆言葉かけ 《チームの時間》 ・チームの願いや作戦を共有化し、それに向かってチームが取り組めるようにする。 ☆話し合い 「一人一人のよい所を生かして、作戦を立てよう」 「作戦の立て方や練習方法は、学習資料を参考にしよう」 「キャプテンを中心に協力して話し合おう」 ☆準備運動・ボール慣れ・練習 「今日の学習には、どんな準備運動が必要かな」 「みんなで教え合おう」 「協力して練習をしよう」 《ゲーム》 ・互いのよさを生かし、高め合えるようにする。 「一人一人のよさをプレーの中で生かしていこう」 「友達のいいプレーが出ていたら、どんどん声をかけよう」 「自分たちのチームのよさをどんどん出していこう」</p> <p>《学習計画づくり》 ・チームの願いをもとに学習の道すじを決め、学習を自分たちで進めていけるようにする。 ※毎時間、「チームの時間」とゲームをどのように取り入れるかを決める。 「自分たちのチームに合った学習の進め方を考えよう」</p> <p>《技能の高まり》 ・作戦に応じた練習やゲームを通して、チームの技能を中心に高めていけるようにする。 「パスをもらえる位置に動こう」「攻めと守りの切り替えを素早くしよう」 「コートを広く使って攻めよう」「ゴールに背を向けて守るといいよ」 「ボールに対応して動きながら審判をしよう」</p> <p>◆学習資料 「チームカード」「チームの時間計画書」「作戦・練習カード」など</p>

「一人一人のよさが生きるチームづくり」に関する教師の支援

(3) 互いによさを認め合い、よさを生かす評価

体育科における学習評価は、生涯体育・スポーツの実践に生きてはたらく力の育成をねらいとし、学習を自発的・自主的に進める力がどの程度身に付いたか（高まったか）を内容として、学習の前後や学習中に児童と教師が行う活動である。また、評価にあたっては、児童一人一人のよさや可能性を生かす工夫が求められている。

よさとは、一人一人がもっている固有の資質や能力である。児童は、そのよさに気付いたり、よさの高まりを実感したり、互いに相手のよさを認め合ったりすることによって、存在感を自覚し、自信をもって学習に主体的に取り組むようになる。

しかし、授業や調査部の行った意識調査の結果から、

○児童は、自分のよさに気づきにくい。

○教師は、技能に関する児童のよさに意識が向けられる傾向がある。

ということが、明らかになった。

そこで、本研究では、児童と教師が学習中に現れたよさを的確に把握できるように、児童の学習時の行動を吟味しながら、ボール運動におけるよさについて整理することにした。児童がどのような場面で、どのようなよさを発揮すれば、ボール運動の楽しさを味わうことができるかを考え、それらを具体的なよさの現れとした。さらに、児童と教師による評価を、いつ、どのような方法で行えば、児童がよさを把握しやすいのかについても検討し、学習カードなどの学習資料を作成する際の参考とした。

① ボール運動における評価計画作成のポイント

○児童が発揮したよさを把握しやすいように、段階や場面に応じて、児童の具体的なよさの現れを例示する。

○よさを関心・意欲・態度、思考・判断、技能の3つの観点で分類し、よさを3つの観点から幅広く把握できるようにする。

○チーム内で、一人一人のどのようなよさが生かされたかを中心に評価できるように、評価方法を工夫する。

② ボール運動の評価規準

観 点	評 価 規 準
関 心	・学習に積極的に取り組みながら、自分やチームのよさを進んで知ろうとしている。
意 欲	・賞賛し合ったり励まし合ったりして、チームで協力しながらゲームをしている。
態 度	・運動の仕方やルールなどを守ってゲームをしている。
思 考	・自分やチームにあつためあてや作戦を決めたり、対戦後に振り返ってめあてや作戦を修正している。
判 断	・めあてや作戦の達成のために、話合いや練習の時間を有効に使っている。 ・教師や友達の助言、資料を生かして学習している。
技 能	・バスケットボール、サッカーの技能を身に付け、よさを発揮しながら、それぞれの役割を果たしてゲームをしている。

※詳細については、平成6年度小学校教育開発指導資料を参照

評価計画 [5・6年バスケットボール・サッカー]

観 点	要 素	学習① 「よさを見つける」		学習② 「よさを生かし、高め合う」		主な評価方法
		話し合い・練習 (チームの時間)	ゲ ー ム	チームの時間 (話し合い・練習)	ゲ ー ム	
関 心 意 欲 態 度	言葉かけ	・よく声を出している。	・友達を応援している。			○観察を中心に児童と教師が評価する。
	熱中 協力 公正 安全	・進んで練習をしている。 ・自分の意見を出している。 ・チームでまとまって話し合いをしたり、練習したりしている。 ・運動の場や用具、服装などの安全に気を付けている。	・よく動いてゲームを楽しんでいる。 ・ルールを守り、審判の判定に従っている。	・全力で練習している。 ・チームのめあてを達成するために協力して練習している。 ・運動の場や用具、服装などの安全に気を付けている。	・友達に賞賛や激励の声をかけている。 ・よく動いてゲームを楽しんでいる。 ・ルールを守り、フェアプレーを心がけている。	
思 考 判 断	共感	・よさを見つけ、認め合っている。	・よさを見つけている。	・よさを見つけたり、認め合ったり、生かしたりしている。	・よさを生かそうとしている。	○観察、学習カード話し合い、等の方法で、児童が中心となって評価する。
	めあて (作戦) 見通し 工夫 助言 資料活用	・めあてをもてる。(個・チーム) ・ゲームを振り返り、次のめあてを立てている。 ・気付いたことを友達に伝えている。 ・学習資料を活用して、話し合いや練習をしている。	・めあてを意識している。(個・チーム)	・チームのめあて・作戦に応じた自分のめあてをもてる。 ・自分のチームのよさを生かした作戦、相手のチームに応じた作戦をたてている。 ・作戦がうまくいったか確かめている。 ・作戦に合った練習をしている。 ・友達や教師の助言を生かしている。 ・目的にあった学習資料を選び活用している。	・チームのめあて・作戦を理解し、それを意識してゲームをしている。 ・友達や教師の助言を生かしている。 ・友達に助言している。	
	知 識 審 判	・パスやシュート、ドリブルの仕方が分かる。 ・ルールを理解して審判をしている。		・攻め方、守り方が分かる。 ・ルールを理解し、よく動いて審判をしている。		○観察を中心に児童と教師が評価する。
技 能	バスケットボール	・声や合図を出してパスをしている。 ・パスをもらえる位置に動いている。 ・手を広げて守っている。	・進んでシュートし ・ドリブルをしてボールを運んでいる。	・攻めや守りを意図して体やボールを操作している。 ・シュートに結び付くパスやドリブルをしている。 ・作戦に有効な位置に動いている。 ・攻守の切り替えを素早くしている。		○観察、学習カード話し合い、等の方法で、児童と教師が評価する。
	サッカー	・動いているボールを足もとに止めている。 ・ボールを体で受けボールの勢いを弱めている。 ・声や合図を出してパスをしている。	・止まっているボールや動いているボールをキック(シュート)している。 ・ドリブルをしてボールを運んでいる。 ・パスをもらえる位置に動いている。 ・コールを背にして守っている。	・攻めや守りを意図して体やボールを操作している。 ・シュートに結び付くパスやドリブルをしている。 ・作戦に有効な位置に動いている。 ・攻守の切り替えを素早くしている。		○観察、学習カード話し合い、等の方法で、児童と教師が評価する。

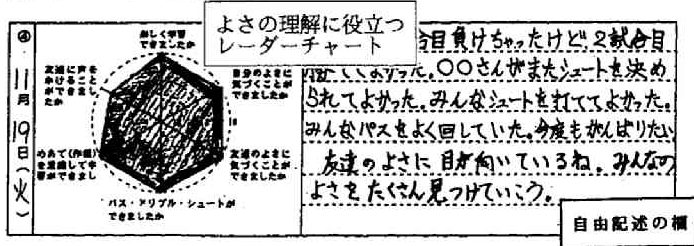
※評価計画作成上の配慮点

1. 学習活動の中心となる『チームの時間』(各チーム毎に計画を立てて話し合いや練習などを実行する時間)とゲームの時間に重点をおいて評価する。
2. 学習①では、「関心・意欲・態度」の評価に重点を置き、学習②では、「思考・判断」の評価に重点を置く。

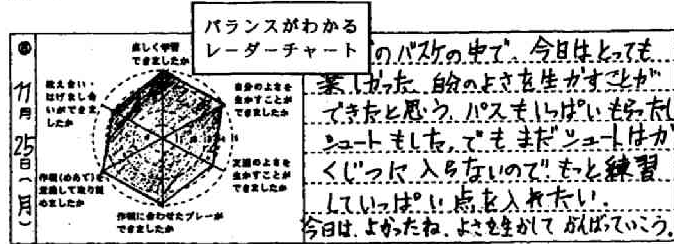
<評価活動にかかわる学習カード例>

ア レーダーチャートの活用

個人カード（学習①）（バスケットボール）



個人カード（学習②）（バスケットボール）

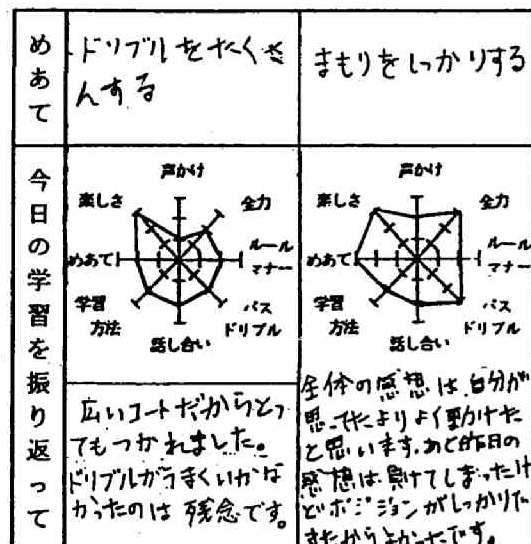


- 評価規準を基に、学習①と学習②の各学習段階で具体的な項目を設定した。
 - 「楽しさ」に関するもの……………関心・意欲・態度についての自己評価
 - 「よさ」に関するもの……………学習のねらいとなる、よさについての自己評価
 - 「チームづくり」に関するもの……………思考・判断の面、友達とのかかわりについての自己評価
 - 「技能」に関するもの……………身に付けたい技能についての自己評価
- 時間をかけずに振り返ることができるものにする。
- レーダーチャートを用いることで、自分の力がバランスよく高まっていくことが分かるようにする。
- 自由記述の欄をつくり、レーダーチャートに表せないものや、話し合いの中で出せなかった感想やよさについての意見を書き込むようにする。
- レーダーチャートは、自己評価がよりの的確なものになったいくための有効な資料である。初めのうちは個人内の尺度は的確でないものもあると考えられるが、お互いによさを見つたり認めたりする相互評価の活動により、次第に正確なものに近付いていく。

<サッカー>

レーダーチャートは、個人学習カードの中に位置付けた。一人一人の児童に毎時間つけさせることで学習の中で見つけた自分のよさの広がりや変化をとらえさせることをねらいとした。

- 教師が把握しにくい、関心・意欲、思考・判断にかかわる項目を中心に設定し、自己評価する。
- カードに記入することで、本時の学習を振り返り、次時のめあての設定に活用する。
- レーダーチャートの広がりや変化を確かめることで、自分のよさの広がりや変化を自覚する。



イ 学習カード例

☆個人やチームのよさを認め合うチームカードの工夫☆

チームで話し合い、認められたよさを短冊に書き、チームカードにはる。こうすることで一人一人のよさやチームのよさの高まりが視覚的にとらえられ、チームの高まりを実感することができるようにした。

<チームカード記入例>

- こんなチームにしたい
めざすチーム像を学習①終了時に記入する。
みんなにパスが回る。
力いっぱいプレーできる。
声をかけ合う。
○○君のドリブルを生かす。
- ハートのよさ
関心・意欲・態度にかかわるよさを記入する。
「ドンマイ」と言ってくれた。
最後までボールを追っていた。
よいプレーをほめてくれた。
- 学び方のよさ
思考・判断にかかわるよさを記入する。
チームのめあてが達成できた。
相手の攻撃パターンがよめた。
シュートのコツを教えてくれる。
- プレーのよさ
技能にかかわるよさを記入する。
シュートがよく入った。
コートをもだなく使った。
相手のいないところに動いた。
- めあて・作戦, 結果
1時間ごとにカードに記入してはる。

V 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 実態調査とその結果について

児童、教師に対する実態調査から、学習の進め方、ボール運動における楽しさの内容、支援の時期や方法、よさをどのように認識しているか、などの項目について、その現状を知ることができた。また、これらの結果を分析することにより、児童が体育学習に望むことと、教師が体育学習を通して願うことの接点を明らかにすることができた。

(2) 研究の視点について

ア よさを生かす学習過程

2段階のステージ型の学習過程とし、それぞれの段階において、よさを見つけ競争の楽しさにふれること、よさを生かした作戦や練習を工夫し楽しさを深めることを中心に支援を行った。これにより、多くの児童が自分のよさを見つけ、認められ、高まりを実感しながら、ボール運動の楽しさを十分に味わえる学習過程を設定することができた。また、弾力的に扱える学習過程としたことにより、児童の現状と学習による変容に対応でき、意欲的な学習活動を引き出すことができた。

イ 一人一人のよさが生きるチームづくり

『チームの時間』を設定し、児童が学習内容を選択し、チームや自分のめあてに向かって自由に活動できるようにしたため、より主体的に学習に取り組み、簡単な学習計画の立案を協力して行うことができるようになった。また、チーム編成、話し合い、チームの時間、ゲームのそれぞれの場面における支援の方法を工夫したことで、充実感と存在感を感じられる学習を進めることができた。

ウ 互いによさを認め合い、よさを生かす評価活動

ボール運動における具体的なよさの現れを整理し、児童や教師が、学習活動の中で発揮されたよさを見つける時の観点を評価計画の中に示した。これにより、児童は自分や友達のよさをより多く発見し、肯定的な自己評価、相互評価ができるようになってきた。また、教師は、技能的なよさ以外にも目を向け、幅広く児童をとらえることができた。

2 今後の課題

- (1) 学習①から学習②へ移行する際、児童のどのような変容を根拠とするのか、その観点をさらに具体的なものにするために研究を深める。
- (2) 学習①の段階におけるオリエンテーションの内容や、だれもが今もっている力で楽しむことができるゲームの内容を、さらに工夫する。
- (3) 『チームの時間』における児童の主体性とそれを生かす教師の指導について明らかにする。